

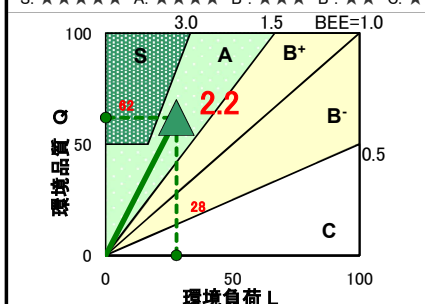
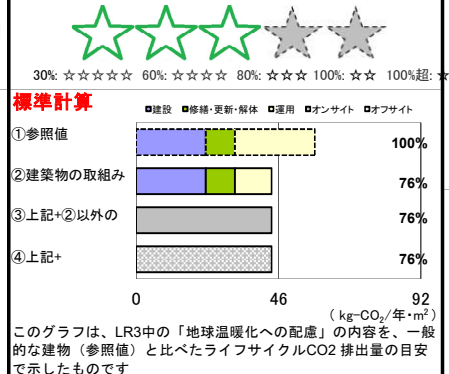
1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)相模原市中央区淵野辺プロジェクト	階数	地上5F	
建設地	相模原市中央区淵野辺五丁目11-10	構造	RC造	
用途地域	工業地域、法22条地域	平均居住人員	1,200 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	- 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2023年11月 予定	評価の実施日	2022年3月24日	
敷地面積	78,101 m ²	作成者	清水建設株式会社一級建築士事務所	
建築面積	35,376 m ²	確認日	2022年3月24日	
延床面積	170,500 m ²	確認者	清水建設株式会社一級建築士事務所	



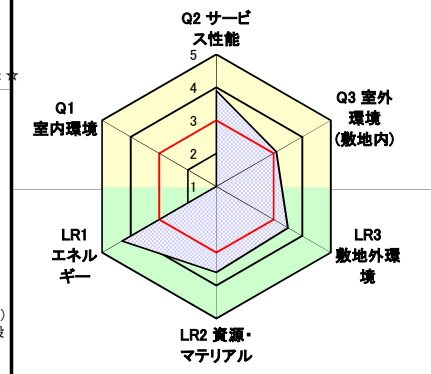
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE=2.2 ★★★★★★☆☆☆☆

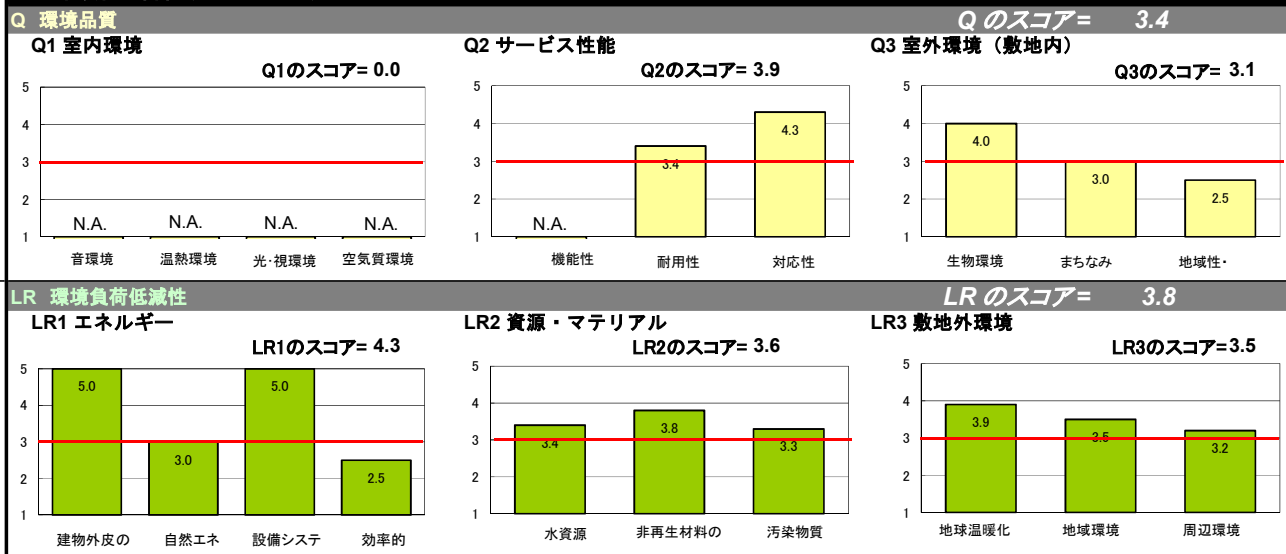
S: ★★★★★★ A: ★★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
Q1 室内環境 評価対象外	Q2 サービス性能 将来の用途変更可能性を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さについてゆとりのある設計としている。	Q3 室外環境(敷地内) 潜在植生種、自生種の植栽を採用している。既存樹木を保存している。維持管理が容易な種を選択、灌水設備を採用し管理の軽減に配慮している。
LR1 エネルギー LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。中央監視設備によりテナント毎に消費量を把握、妥当性の確認が出来る計画をしている。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓に加えて節水型便器も採用している。壁・天井共軽鉄下地を採用し、再利用可能なOAフロアを採用している。	LR3 敷地外環境 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。付置義務を満たす量の駐車場を確保し利便性に配慮、荷捌き車両の駐車施設を確保するなど交通負荷の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される